

令和2年度「鹿児島学習定着度調査」結果

枕崎市立桜山中学校

教科	学年	本校	市	県	市差	県差
国語	1年	81.1	77.5	78.7	3.6	2.4
	2年	79.9	77.3	76.7	2.6	3.2
社会	1年	80.9	69.2	64.4	11.7	16.5
	2年	80.2	66.5	67.6	13.7	12.6
数学	1年	79.2	75.7	74.8	3.5	4.4
	2年	73.9	66.5	67.0	7.4	6.9
理科	1年	78.4	75.7	70.3	2.7	8.1
	2年	77.0	71.6	70.8	5.4	6.2
英語	1年	77.4	63.9	68.0	13.5	9.4
	2年	69.8	53.4	57.8	16.4	12.0

※網掛けは県差+5以上

- ・令和2年度の結果は、県平均の正答率を全ての教科で上回った。
- ・しかし、以下のように課題が見られた問題もある。
- ・2年国語，2年社会以外は、定着率が低い問題は「思考力・表現力」を問われるものであった。

〈各教科，特に課題が見られた問題〉

中1

- 〔国語〕 話合いの中での質問の意図をとらえることができる。
(正答率29.4%)
- 〔社会〕 奈良時代の農民の生活について，資料を基に説明することができる。
(正答率38.9%)
- 〔数学〕 方程式を用いて，立方体の個数を求めたり，代入することで竹ひごの本数を求めたりすることができる。
(正答率50.0%)
- 〔理科〕 物質の状態変化を理解し，密度の法則に当てはめて考えることができる。
(正答率47.1%)
- 〔英語〕 対話の場面を理解し，適切な語を入れることができる。
(正答率11.8%)

中2

- 〔国語〕 セイセキを上げる。
(漢字の書き：正答率28.5%)
動詞の活用形を理解している。
(正答率33.3%)
- 〔社会〕 江戸時代に大阪が商業の中心地として栄えた理由を，資料を基に説明することができる。
(正答率：55.0%)
- 〔数学〕 与えられた資料の代表値を適切に求めることができる。
(正答率45.0%)
- 〔理科〕 示準化石を理解している。
(正答率38.1%)
雲のでき方を理解している。
(正答率47.6%)
- 〔英語〕 与えられたテーマについて，文と文とのつながりなどに注意して，まとまりのある英文を「正確に」書くことができる。
(正答率10.0%)

授業改善のポイント

1 第1章総説（1）「改訂の経緯」から

「今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えている」

・社会構造や雇用環境の大きな変化→予測が困難な時代
(例：生産年齢人口の減少，グローバル化の進展，絶え間ない技術革新，AIの進化)

・人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断できるのは人間の最も大きな強み

学校教育では、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値観につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができることなどが求められる。

2 各教科の授業づくりのポイント（「学びの羅針盤」から）

国語	<ol style="list-style-type: none"> 1 言語活動を位置付けた課題解決的な学習過程の実現 2 言語活動を通しての指導と評価の一体化 3 言葉による見方・考え方を働かせた言語活動の実現
社会	<ol style="list-style-type: none"> 1 働かせたい社会的な見方・考え方を明確にした授業の構成 2 予想を立てる場面や振り返りの場面での児童生徒の思考の深化 3 社会的事象に対する自分の考えを書く活動の効果的な設定
数学	<ol style="list-style-type: none"> 1 育成を目指す「数学的に考える資質・能力」を明確にした授業設計 2 問題を発見し、解決する数学的活動の充実 3 「数学的な見方・考え方」を働かせた学習活動の展開
理科	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒自身に問題を見いだし、問題解決への確かな見通しをもたせる工夫 2 児童生徒一人一人が、観察、実験の主体となるような指導計画の作成 3 結果を分析し解釈する場面における、「理科の見方・考え方」を働かせる手立ての工夫 4 終末の場面において、児童生徒が自分の言葉でまとめ、振り返り「分かった。できた。」と実感できる時間の確保。そして、次の学習や新たな疑問につなげる手立ての工夫
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 1 育成する資質・能力を明確にしなが、「思考力、判断力、表現力等」、「知識」、「技能」に関する各事項を相互に関連付けた題材の工夫 2 〔共通事項〕を要として、歌唱、器楽、音楽づくり（創作）及び鑑賞の各学習を関連させる工夫 3 児童生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図などを相互に伝え合う活動の工夫 4 児童生徒が自分の言葉で学習を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚できるような評価の工夫 5 生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から児童生徒が学んでいることを自覚できるような学習の工夫
保体	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる教材・教具の工夫 2 「運動が苦手」、「運動に意欲的でない」児童生徒への配慮と手立ての工夫 3 言語活動、ICT機器の活用など、仲間と共に主体的・協働的に課題に取り組む場面の設定 4 児童生徒の意欲を高め、思考を促すめあての設定と、まとめ・振り返りを行う場の設定 5 育成を目指す三つの資質・能力について、バランスの取れた指導と評価の充実
外国語 外国語活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 「～することができる（CAN-DO）」の形式での学習到達目標を設定（学年や学期ごと）【外国語のみ】 2 コミュニケーションの目的や場面、状況が明確な単元目標の設定 3 目標設定に必要な言語活動の計画的な実施（毎時間の授業） 4 児童生徒が自らの学習のまとめと振り返りを行う場の設定 5 目標の達成度を児童生徒の姿で的確に把握するために必要な評価の実施